



心のまんなかでアートをあじわってみる

2024年9月14日(土) - 2025年1月13日(月・祝)

召しませ！至福のアート体験。

明治時代初期に原六郎*が東洋古美術を蒐集し始めてから130年余り、1979年に現代美術の紹介に特化した原美術館が開館して45年。長い歳月を経てコレクションされた作品たちには、それぞれの歴史的な背景はもちろん、ユニークな特徴が満載です。時を経てめぐり合う傑作や、何度でも味わいたい名作と共に、展示室にはいつも新鮮な驚きが満ち溢れています。



図1 ジャン=ミシェル オトニエル《Kokoro》
2009年

【展覧会概要】

美術館で出会う作品は、あなたに何を語りかけてくるのでしょうか。どんな感情を抱かせるのでしょうか。面白い、楽しい、きれいといった気持ちを高揚させる作品もあれば、難しい、悲しい、怖いというイメージを呼び起こす近寄りづらい作品に出会う場面もあるかもしれません。その一方で、一目見ただけでは惹かれなかった作品でも、展示空間や展覧会のテーマの違いで改めてその魅力に気が付いたり、過去に見た作品でも隣にいる人との会話や新しく得た知識に影響され新鮮に映ることもあります。あるいは、作家の考え方や制作背景を知るにつれて自身が描いた想像とのギャップに驚くといった経験などは、誰でも身に覚えがあるかもしれません。

本年度開催の「まんなか」展、第1期(春夏季)は「日本のまんなかでアートをさげんでみる」と題し、当館のコレクション作品を中心に、「日本のまんなか」を自称する群馬県渋川市から、あるいは鑑賞者自身から「外側」へアートを発信していくような企画を開催いたしました*。続く第2期にあたる本展では「心のまんなかでアートをあじわってみる」と題し、作品に向かい合う人それぞれが自身の心の「内側」へと美術を引き寄せることを提案いたします。

専門的な知識がないと楽しめないと思われてしまいがちな現代美術ですが、本来「鑑賞」することの語源は「味覚」や「趣味」を意味する taste と同じであり、またそこには個人の「好み」で「判断」する行為も含まれます。今、目の前にある作品と向かい合う時間を、より個人的な喜びを手掛かりにしながらか五感に触れるものに寄り添う経験と言い直すことができるのであれば、正しい解釈とは何かと頭を悩ませることからは少しだけ距離を置き、自身の気持ちを振り所に現代美術への関心を深めることができるでしょう。



思わず写真に撮りたくなる瞬間や、見惚れてしまう場面、作品のどの部分が好奇心を刺激するのか、戸惑いを覚えるのか、改めてご自身の心で感じ取りゆっくり味わってみる、そのようなときをお過ごしください。

図2 ロイリキテンシュタイン《静物》
1972年 カンヴァスに油彩 105 x 120 cm
© Estate of Roy Lichtenstein, New York
& JASPAR, Tokyo, 2024 G3526



*原六郎について(満腹家もぐもぐさんによるイラスト解説)

*春夏季「日本のまんなかでアートをさげんでみる」プレスリリース

【各展示室テーマおよび出品作品(予定)】

■ギャラリーA: 遠く離れてみる

マックス ストリックヒャー、増田佳江、加藤泉、横尾忠則、辰野登恵子、吉田克朗、菅井汲など

■ギャラリーB: 目を閉じてみる

リチャード セラ、米田知子、ジャスパー ジョーンズ、名和晃平、黎志文など

■ギャラリーC: 味わってみる

アンディ ウォーホル、デイヴィッド ホックニー、福田美蘭、草間彌生、ロイ リキテンシュタインなど

■観海庵: 向き合ってみる

ジャスパージョーンズ、東芋、狩野探幽、円山応挙など

■通年展示、屋外作品

草間彌生《ミラールーム(かぼちゃ)》、奈良美智《My Drawing Room》、宮島達男《時の連鎖》、東芋《真夜中の海》、鈴木康広《日本列島のベンチ》、森村泰昌《輪舞(双子)》、アンディ ウォーホル《キャンベルズ トマト スープ》、オラファー エリアソン《Sunspace for Shibukawa》、ジャン=ミシェル オトニエル《Kokoro》など

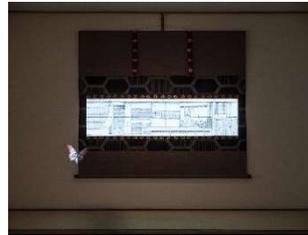


図3 東芋《糸口心中》2018年
シングルチャンネル映像イン
スタレーション、掛け軸、131.5
x 148.7cm © Tabaimo /
Courtesy of Gallery Koyanagi

【会期中のイベント】

■プレス向けガイドツアー

9月17日(火) 11:00~(60分程度)

■屋外作品ガイドツアー

9月22日(日)、10月5日(土) 11:00~(60分程度)

参加費 500円、各回 10名

■講演会「Meet the Artist: 東芋」

10月13日(日) 場所: カフェ ターブル

■開架式収蔵庫ガイドツアー

11月3日(日) 11:00~(60分程度)

参加費 1000円、5名

* 通常はメンバーシップ限定イベントですが、一般の方も参加できます

■担当学芸員による作品解説

11月3日(日) 13:30~(60分程度)

参加費 500円、各回 10名

■対話型作品鑑賞会 (協力: 対話型アート鑑賞ラボ)

11月9日(土) 11:00~(60分程度)

参加費無料、10名

■学校の先生を対象とした無料見学日

12月23日(月)から29日(日)の6日間

* 26日(木)は休館日の為除外

* 展覧会や施設の説明などをご希望の場合はお問い合わせください

* イベントの詳細については当館ウェブサイトをご確認ください

【開催要項】

展覧会名 「心のまんなかでアートをあじわってみる」

会期 2024年9月14日(土) - 2025年1月13日(月・祝) * 観海庵は会期中展示替えあり

主催・会場 原美術館 ARC

開館時間 9:30 am - 4:30 pm (入館は 4:00 pm まで)

休館日 木曜日(1月2日は開館)、1月1日 * 2025年1月14日から3月中旬まで冬季休館

入館料 一般 1,800円、70歳以上 1,500円、大高生 1,000円、小中生 800円

* 前売りオンラインチケット(日にち指定) https://e-tix.jp/haramuseum_arc/

* 原美術館 ARC メンバーシップ会員は無料、学期中の土曜日は群馬県内小中学生無料

住所 〒377-0027 群馬県渋川市金井 2855-1

Tel: 0279-24-6585

E-mail: arc@haramuseum.or.jp

ウェブサイト: <https://www.haramuseum.or.jp>

X: @haramuseum_arc

Instagram: @haramuseumarc

【広報用図版およびクレジット】



図 4



図 5



図 6



図 7

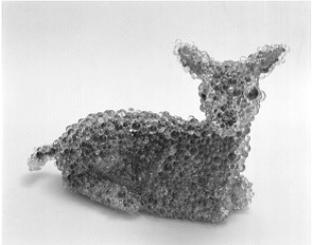


図 8



図 9



図 10



図 11



図 12



図 13

【図 4】増田佳江《遠い歌 近い声》2012 年 カンヴァスに油彩 194 x 259cm ©Kae Masuda

【図 5】加藤泉《無題》2006 年 カンヴァスに油彩 227 x 181.8cm ©Izumi Kato

【図 6】横尾忠則《誰か故郷を想わざる》2001 年 カンヴァスに油彩 227.5 x 182cm ©Tadanori Yokoo

【図 7】米田知子《マハトマ・ガンジーの眼鏡-『沈黙の日』の最後のノートを見る》2003 年 ゼラチンシルバープリント 120 x 120 cm ©Tomoko Yoneda

【図 8】名和晃平《PixCell-Bambi #2》2006 年 ミクストメディア 31.5 x 51.0 x 20.0cm

【図 9】福田美蘭《静物》1992 年 カンヴァスにアクリル絵具、糸、紙、ビニール 90 x 110 cm ©Miran Fukuda

【図 10】森弘治《After a painting》2004 年 ビデオ(ループ) ©Hiroharu Mori

【図 11】狩野探幽《龍虎図》江戸時代 絹本墨画 双幅(前期展示予定)

【図 12】《葡萄栗鼠》絵提重 江戸～明治時代一基(前期展示予定)

【図 13】伝 小栗宗湛《月に猿猴図》室町時代 紙本墨画 一幅(前期展示予定)

【常設およびセミパーマネント作品】



図 14

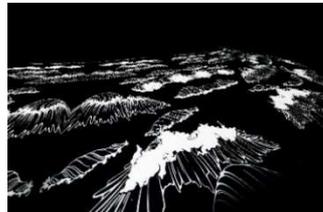


図 15



図 16



図 17

【図 14】奈良美智《My Drawing Room》2004/2021 年 312.0 x 200.5 x 448.0cm ©Yoshitomo Nara

【図 15】東芋《真夜中の海》2006 年 ビデオインスタレーション ©Tabaimo 撮影: 木暮伸也

【図 16】オラファー エリアソン《Sunspace for Shibukawa》2009 年 ステンレス、ガラスプリズム ©2009 Olafur Eliasson

【図 17】鈴木康広《日本列島のベンチ》2014/2021 年 ミクストメディア ©Yasuhiro Suzuki 撮影: 木暮伸也

*ロイリキテンシュタイン《静物》(図 2)の図版掲載については、当館への掲載依頼後、別途各媒体からの著作権使用許可申請が必要です。掲載をご希望の場合は、まずは当館までご連絡ください。

【原美術館 ARC について】

原美術館 ARC は、現代美術の専門館である原美術館(東京・品川、1979-2021)と別館ハラ ミュージアム アーク(群馬・渋川、1988-)の活動を集約し、2021年4月に始動しました。青い空と深い緑に抱かれた豊かな環境での美術体験を特長としています。

「原美術館コレクション」は、運営母体である公益財団法人アルカンシエール美術財団理事長の原俊夫が財団設立時より収集した1950年代以降の世界の現代美術コレクションです。抽象表現主義やポップアートなど、20世紀美術を彩った巨匠の絵画や彫刻から現在のアートシーンで活躍する作家の写真や映像作品まで多種多様な表現を網羅しています。

明治の実業家・原六郎(1842-1933)が収集した近世日本絵画、工芸、中国美術などを「原六郎コレクション」として所蔵しています。なかでも中国陶磁の真髄を伝える国宝「青磁下蕪花瓶」や浮世絵美人図の先駆けとなる重要文化財「縄暖簾図屏風」、円山応挙の大作画卷「淀川兩岸図巻」、永徳ほか狩野一門による「三井寺旧日光院客殿障壁画」が代表作です。

建築は、「建築界のノーベル賞」と称されるプリツカー賞を受賞した磯崎新(1931-2022)が手がけました。榛名山の峰々と呼応するピラミッド型の屋根が印象的なギャラリーAと前庭に向かい両翼を広げるギャラリーB、Cは、現代美術作品の映える端正な空間です。一方、滋賀県・三井寺(園城寺)の旧日光院客殿の書院造に想を得た特別展示室「観海庵(かんかいあん)」は、内部のいたるところに名工の技が光る静謐な和風空間です。

広々とした庭ではアンディ ウォーホルやオラファー エリアソンなど、国内外のアーティストによる屋外作品を鑑賞しながらの散策もお楽しみいただけます。

開架式収蔵庫に保管している一部の原美術館コレクションは、学芸員や評論家、教育・研究機関に所属する方など主に美術の専門家を対象に作品の鑑賞・調査が可能となっています。また、原美術館 ARC メンバーの方には、毎月1回の庫内ガイドツアーを行っています。

大きな窓と高い天井が心地よいカフェ ダールでは、群馬県産の新鮮な食材を活かした特製サンドイッチやパスタなどのお食事や、丁寧にハンドドリップで淹れたコーヒーなどをご用意。展示作品をイメージしてスタッフが考案した「イメージケーキ」もお召し上がりいただけます。

ザ・ミュージアムショップでは、当店オリジナル商品をはじめ、展覧会カタログや関連書籍、アーティストグッズ、デザイン小物やアクセサリなど、現代美術を暮らしに取り入れ、お楽しみいただける商品を取り揃えています。日本の伝統技術を感じさせるモダンな商品や、群馬県ゆかりの作家をご紹介するなど、お土産やギフト、旅の話題を探すにもぴったりです。

原美術館 ARC では、メンバーシッププログラムを設けています。会員証のご提示で無料入館やカフェ、ミュージアムショップでの割引が適用される他、開架式収蔵庫ツアーなどのメンバー限定イベントへのご招待も。当館の活動をサポートしながら、様々な角度からアートを体験するプログラムにぜひご参加ください。

<https://www.haramuseum.or.jp/jp/membership/>



原美術館 ARC 外観



特別展示室 観海庵 内観



開架式収蔵庫



カフェ ダール メニュー例



ザ・ミュージアムショップ オリジナルグッズ



【交通案内】

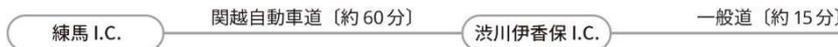
■電車・バスで



■高速バスで



■車で



■ヘリコプターで



※2024年7月現在。ご利用の際は運行会社の時刻表をお確かめください。

■電車利用の場合

★JR「高崎駅」西口より原美術館 ARC 行き直通バスにて約1時間(4~10月の毎週日曜日運行予定)。

東京駅・上野駅から JR「高崎駅」にて、上越／吾妻線乗り換え、「渋川駅」より関越交通バス「伊香保温泉」または「伊香保榛名口」行き(3番のりば)にて約15分、「グリーン牧場前」下車、徒歩約7分。または「渋川駅」よりタクシーで約10分。

【JR乗換案内例】 *2024年4月現在。ご利用の際は時刻表をお確かめください。

上越・北陸新幹線(平日・土日)

<はくたか 553号>

東京駅 7:52 発→高崎駅 8:42 着/8:53 発[吾妻線 大前行]→渋川駅 9:19 着/9:25 発 関越交通バス[伊香保榛名口行]→グリーン牧場前 9:40 着

<とき 317号>

東京駅 10:41 発→高崎駅 11:32 着/11:44 発[吾妻線 長野原草津口行]→渋川駅 12:08 着/12:14 発 関越交通バス[伊香保温泉行]→グリーン牧場前 12:29 着

特急「草津・四万」

<草津・四万 31号> * 土休日のみ運行

上野駅 9:00 発→渋川駅 10:38 着/10:55 発 関越交通バス[伊香保温泉行]グリーン牧場前 11:10 着

<草津・四万 1号>

上野駅 10:00 発→渋川駅 11:36 着/11:42 発 関越交通バス[伊香保榛名口行]グリーン牧場前 11:53 着

<草津・四万 3号>

上野駅 12:10 発→渋川駅 13:50 着/13:55 発 関越交通バス[伊香保榛名口行]グリーン牧場前 14:06 着

■高速バス利用の場合

関越交通バス * 詳細は 関越交通バスのサイトでご確認ください。 <https://kan-etsu.net>

- ・伊香保四万温泉号 羽田線(東京駅経由) * 伊香保グリーン牧場下車
- ・高崎・伊香保・四万温泉号 八王子線 * 渋川駅にて路線バスに乗り換え、伊香保グリーン牧場前下車
- ・吉祥寺-草津線 * 渋川駅にて路線バスに乗り換え、伊香保グリーン牧場前下車

JRバス * 詳細は JRバス関東のサイトでご確認ください。 <http://time.jrbuskanto.co.jp/bk03010.html>

- ・上州ゆめぐり号 新宿駅⇄渋川駅・伊香保・草津温泉 * 渋川駅にて路線バスに乗り換え、伊香保グリーン牧場前下車

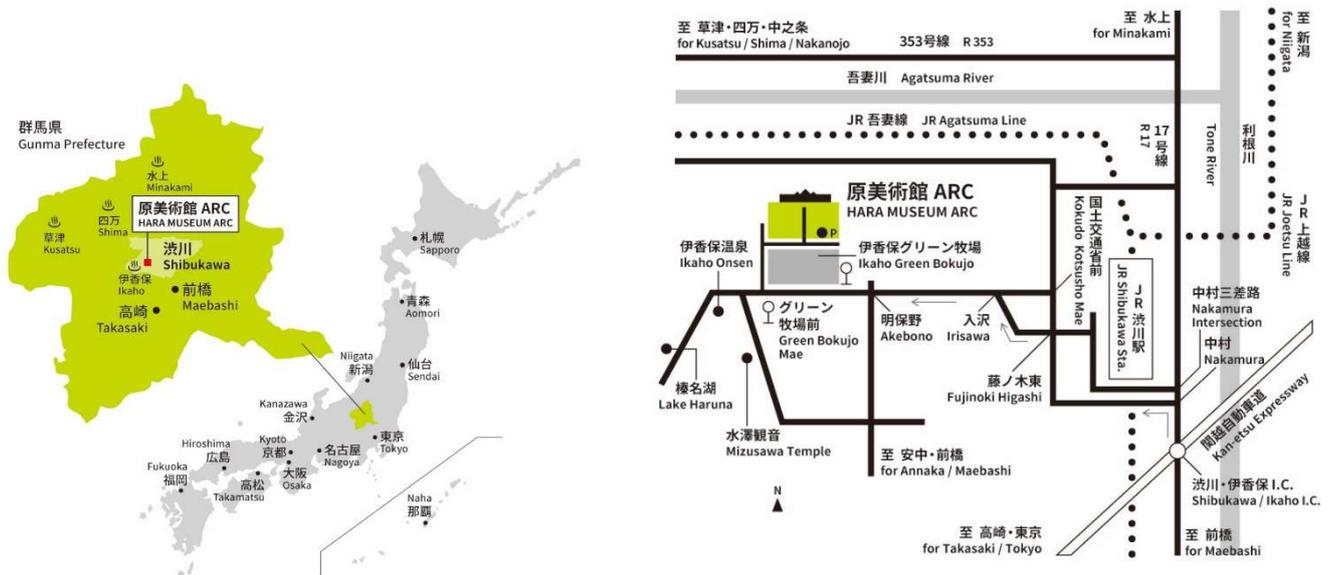
お車の場合

関越自動車道「渋川・伊香保 I.C.」より 8 km、約 15 分。(無料駐車場 46 台、大型バス駐車場 2 台)

ヘリコプターの場合

東京ヘリポート→伊香保温泉長峰ヘリポート 約 35 分、伊香保温泉長峰ヘリポートから当館までタクシーで片道約 10 分

* 詳細は各ヘリコプターチャーター会社へお問い合わせください。



展覧会「心のまんなかでアートをあじわってみる」

お問合せ先: 学芸部 山川 (本展担当)、岩村

E-mail: press@haramuseum.or.jp Tel: 0279-24-6585 Fax: 0279-24-0449